

見  
スル信書ハ監獄署長之ヲ閲檢又可  
等ノ文意アル時ハ通信ヲ許サス  
人ニ贈り來ル信書ハ監獄署長之ヲ  
又ヘ遷善ノ諭示ナ主トシタルモ  
與シ若シ在監人ノ悛改ヲ妨クルモ  
其ミス  
又出入ノ信書ハ審問委員若クハ主  
レハ贈答セシムルヲ得ス  
或スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシ  
及ニ受領可キ者ノ住所氏名ヲ書  
ケ送付但郵便紙ハ自辨セシム其  
ハ送付ス  
ハテ商會セシム  
若シ寃之ヲ差出セシム可シ  
元セント誦ノ形アル時ハ監獄署長  
職業及名等ヲ謂ヒ其緣由旨趣ヲ詳  
ナリテ形狀ノ延フ可キコトナキ時ハ  
三條ノ規則ニ從ヒ而會セシム但  
シルコトナ得ス

病者フル時ハ同居ノ者共ニ介保ニ力ナ致ス可キハ勿論其  
看病人タラシムル者ハ切資ニ之ヲ看病ス可シ〇水火風震  
等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二ナ四時内ニ監獄  
署又ハ憲兵部若クハ警察署ニ其旨ヲ出ス可シ  
右ノ諸城ニ達フ者及ヒ遠フ者アルトメ知テ告ケサル者若  
クハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀  
ヲ量リ處分ス可キ者ナリ

年號月日

海軍某監獄署

第十一章 賞譽

第五十八條 已決囚獄則ナ謹守シ且悛改ノ行爲著キ者ト監  
獄署長ニ於テ認ムル時ハ賞譽ス可シ

第五十九條 賞譽セシ者ニ賞譽毎ニ之ヲ表スル爲メ衣服  
ノ左袖肩臂間ノ表面ニ横二寸豎一寸ノ赤色ノ布ヲ縫着ス  
可シ

第六十條 賞表ハ假出獄若クハ特赦ナ具狀スルノ考據ト爲  
スコト得

第六十一條 賞表ナ得タル者ニハ二月間ニ一次親威故會ニ  
接見及ヒ通話ルヲナシ

第六十二條 自決囚在獄人ニ逃走ナ密告若クハ捕獲シ或ハ  
監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ或ハ人命ナ救援シタル者アル  
時ハ金二十五錢以下ヲ賞與ス其賞金ハ監獄署ニ領置シ本  
人ノ請ニ由リ使用品若クハ食物ヲ購ヒ之ヲ給ス可シ但賞  
表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第六十三條 未決者ニ在ル者第六十二條ノ功勞アル時ハ之  
ヲ錄シテ軍法會議ノ參考ニ供ス可シ

慈治人ニ在テハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之  
ヲ與フ可シ

第十二章 懲罰

第六十四條 已決囚獄則ナ犯シタル時其輕重ヲ量リ左ノ  
例ニ從テ處罰ス(一)絶食 朝靄放養ト書信接見ナ絶ス(二)  
居セシメ隔離時限未コ照セテ座作ノ役ヲ科ス(三)減食  
常食ノ半若クハ其三分ノ二ナ減シ復次二番ノ外菜ヲ與ヘ  
ス(四)閑室 閑室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ナ減  
シ補湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ナ寢具ナ禁ガ

第六十五條 絶食屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閑室ハ  
七晝夜ヲ限ト爲ス

減食閑室七晝夜ニ滿ルモ悛改ノ狀ナキ時ハ一旦之ヲ免シ  
更ニ之ヲ科ナルヲ得

第六十六條 慈治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則ナ犯シク  
ル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

(一)獨慎 晉夜一室ニ獨居セシム(二)減食 常食ノ半以  
内ヲ減ス但菜ヲ減セス 獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以  
内ト爲ス

第六十七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケタル事獄則ナ犯シ  
タル時ハ其輕重ヲ量リ第六十五條第六十六條ニ準擬シ減  
食スルヲ得

第六十八條 賞表ヲ有スナ者懲罰ナ受タル時ハ賞表一個  
若クハ數個ナ懲罰ス

第六十九條 減食若クハ閑室ノ罰ニ處セタル者アル時ハ醫  
官ナシテ診視セシメ身體ニ妨ナキナ證シテ後之ヲ行フ可  
シ

チ米國ニ歸セントスルハ米國

ノ文明ノ長歩ニ驚テ暗ニ其  
ノ政治ガ共和主義ナルコ由  
ノ名ノ意味スル如ク合衆共  
ノ新辟ナル其泡ハ則ニ志士ノ桂枝ニシテ其八ニ亦活潑有爲  
、國運ノ進ムフハ猶旭日ノ東天ニ昇ムガ如シ豈ニ盛ンナラ  
ズト云フ可ケンヤ然ルコ此ト一草木ヲ隔テ、多年ノ交情最  
モ温カナル我日本人ニシテ今ニ及シテ決シテ米國ヲ厭樂ス

タヒチ島の土産アーモンドチョコレートを購入。アーモンドの香りがする甘いお菓子で、とても美味しい。

日龍勳發 埃及

此ト一葦水ヲ隔テ、多年ノ交情有  
テ今ニ及シア次シテ米國ヲ厭棄ス  
廣々日本國中ナレバ或ハ文明ノ長  
タ怨モ吐ク者モアル可シ廢人夢チ  
テ論スルコ足ラザルナリ試ニ米國  
メテ其國少年子弟ノ情況ヲ問ヘ若  
マ米國ハ共和ノ國ナルガ故ニ其國  
極メ或ハコレニ漫游スル日本ノ遊  
化セラルベキ筈ナレル其實ハ全ク  
決シテ乱暴ヲ體カズ又決シテ激論  
曼若クハ俄羅西等ノ蔵書ニ比較ス  
ノ如ク一ハ輕快ニシテ脱免ノ如キ  
シテ能ク知悉スル所ナリ左レバ國  
全般ヨリ心年子弟ニ至ルマア共和  
類纂ナリト思フハ黑白顛倒正シク  
ルノ妄想ナリト云ハザルモ得ズ又  
世界ニ入レバ財ヲ儲ケ資ナ作ルノ  
隆盛ナ極メ獨リ政治ノ事項ナ以テ  
國ハ世界中殆ント米國ノ右ニ出ル  
ルニ商賈工藝學問等カ互ニ能ク平  
世界ニ入レバ財ヲ儲ケ資ナ作ルノ  
隆盛ナ極メ獨リ政治ノ事項ナ以テ  
ニシテ政治ノ爭論以テ學者ノ耳ナ  
特ニ他邦ニ卓絶スル秀點ナレバ我  
ノ士ハ皆ナ米國ニ親マザル可カラ  
ソ社会ニ開ユル愁苦ノ如キハ固ヨリ  
モ亦幸ニ名ノ爲メニ我資ナ誤ル勿

四月二十七日を

此ト一葦水ヲ隔テ、多年ノ交情有  
テ今ニ及シア次シテ米國ヲ厭棄ス  
廣々日本國中ナレバ或ハ文明ノ長  
タ怨モ吐ク者モアル可シ廢人夢チ  
テ論スルコ足ラザルナリ試ニ米國  
メテ其國少年子弟ノ情況ヲ問ヘ若  
マ米國ハ共和ノ國ナルガ故ニ其國  
極メ或ハコレニ漫游スル日本ノ遊  
化セラルベキ筈ナレル其實ハ全ク  
決シテ乱暴ヲ極カズ又決シテ激論  
曼若クハ佛蘭西等ノ蔣生ニ比較ス  
ノ如ク一ハ輕快ニシテ脱兎ノ如キ  
シテ能ク知悉スル所ナリ左レバ國  
全般ヨリ心年子弟ニ至ルマア共和  
類纂ナリト思フハ黑白顛倒正シク  
ルノ妄想ナリト云ハザルモ得ズ且  
世界ニ入レバ財ヲ儲ケ資ナ作ルノ  
隆盛ナ極メ獨リ政治ノ事項ナ以テ  
國ハ世界中殆ント米國ノ右ニ出ル  
ルニ商賈工藝學問等カ互ニ能ク平  
世界ニ入レバ財ヲ儲ケ資ナ作ルノ  
隆盛ナ極メ獨リ政治ノ事項ナ以テ  
ニシテ政治ノ爭論以テ學者ノ耳ナ  
特ニ他邦ニ卓絶スル秀點ナレバ我  
國ハ世界中殆ント米國ノ右ニ出ル  
ノ士ハ皆ナ米國ニ親マザル可カラ  
ソ社会ニ開ユル愁言ノ如キハ固ヨリ  
モ亦幸ニ名ノ爲メニ我實ナ誤ル勿  
以シ當嗣を出發するならん

卷之三

ノ東天ニ昇ルガ如シ豈ニ盛ンナラ  
此ト一草木ヲ關ナ、多年ノ交情最  
上ノ關處ヨシテ其ハ亦活潑有爲  
廣キ日本國中ナレバ或ハ文明ノ長  
々怨チ吐ク者モアル可シ擬人夢チ  
テ論スルニ足ニザルナリ試ニ米國  
極メ或ハコレニ漫薄スル日本ノ遊  
メテ其國少年子弟ノ情況ヲ問へ若  
ニ米國ヘ共和ノ國ナルが故ニ其國  
化セラルベキ筈ナレニ其實ハ全ク  
決シテ亂暴ヲ極カズ又決シテ激進  
長若クハ佛蘭西等ノ舊生ニ比較ス  
ノ如ク一ハ輕快ニシテ脱免ノ如キ  
シテ能ク知悉スル所ナリ左レバ國  
民經ヨリ少年子弟ニ至ルマア共和  
制暴ナリト思フハ黑白顛倒正シタ  
ルノ妄想ナリト云ハザルチ得ズ且  
世界ニ入レバ財ヲ儲ニ富ナ作ルノ  
隆盛ナ極メ獨リ政治ノ事項ナ以テ  
國ハ世界中殆ント米國ノ右コ出ル  
ルニ商賈工藝學問等カ互ニ能ク平  
歴シ、學問ノ社會ニ入レバ理ナ究  
ニシテ政治ノ爭論以テ學者ノ耳ナ  
世界ニ入レバ財ヲ儲ニ富ナ作ルノ  
特ニ他邦ニ卓絶スル秀才點ナレバ我  
ノ士ハ皆ナ米國ニ親マザル可カラ  
シ以テ米國トノ交際ヲ親シクス  
一ノ害アルナ知ラザルナリ左レバ  
言ス、日本國ノ文明ハ依然長歩シ  
テ他邦ニ卓絶スル秀才點ナレバ我  
モ亦幸ニ名ノ爲メロ我質ナ誤ル勿  
以テ當國を出發するならん